

住吉消防 救助ドッグ

尾三消防本部

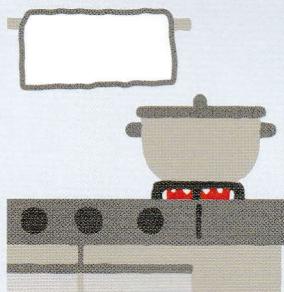
愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字曙18番地



建物火災における出火原因ワースト5

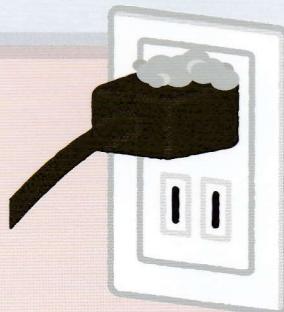
コシロ(IHコンロ含む)

- 来客や電話は火を消してから対応する。
- コンロやグリルなどの汚れは使用の都度、清掃する。
- 少量の油による調理は、過度の温度上昇に注意する。
- 燃え移る可能性の高い袖口の広い衣類などを着て調理しない。
- コンロの熱がとどく場所にふきんやキッチンペーパー、調味料などを置かない。



電気

- たこ足配線をしない。
- コンセント周囲を清掃する。
- 電気コードを家具などで踏み付けない。
- プラグは、コンセントにしっかり差し込む。
- タンスや冷蔵庫などに隠れたコンセントの清掃を忘れない。



放火

- 車庫などを開けっ放しにしない。
- 庭木などの剪定した枝木を放置しない。
- 墁根や塀による敷地内の目隠しは最小限にする。
- 家のまわりに新聞紙やダンボールなどを放置しない。
- 家のまわりをセンサーライトなどの設置により暗くしない。



ストーブ(電気ストーブ含む)

- ストーブを点けたまま寝ない。
- ストーブで洗濯物を乾かさない。
- 石油ストーブは火を消さずに給油しない。
- ストーブの周囲に燃えやすいものを置かない。
- ストーブのフィルターに付着する埃を定期に清掃する。



タバコ

- タバコのポイ捨ては絶対にしない。
- タバコの吸殻を灰皿に溜め過ぎない。
- タバコの吸殻は水に浸して完全に消す。
- 灰皿の周囲に燃えやすいものを置かない。
- 布団やベッド、こたつなどでタバコを吸わない。

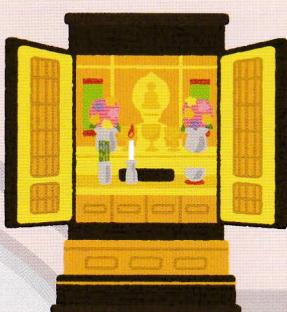


番外編(高齢者宅で目立つ仏壇火災)

仏壇でローソクや線香をあげたままその場を離れ、ローソクや線香が倒れるなどして火災に至ってしまう事例があります。

次のことを守り火災を予防してください。

- 電気タイプのローソクや線香を積極的に取り入れる。
- ローソクや線香をあげる場合には、その場を離れない。
- 仏壇は、ローソクや線香の転倒、カーテン等への着火を防ぐため、風の影響を受けない場所に設置する。





火災が『拡大』しない環境づくり

防炎品を取り入れましょう

私たちの生活は、さまざまな繊維製品に囲まれています。繊維は、一般に燃えやすいものが多く、火災発生時には、火災拡大の一因になることがあります。

繊維製品には、万が一の火災の拡大を防ぐため『燃えにくい』性質に加工された防炎品があります。

防炎品には、防炎品である旨のラベル表示があり、カーテン、じゅうたん、寝具、衣類などさまざまな製品が流通しています。購入の際は、ラベル表示のあるものを選び、積極的に生活に取り入れましょう。



不要な可燃物を減らしましょう

火災の大多数は、小さな火種から大きな火災に至ります。

自宅内に不要な可燃物を放置すれば、燃え移り易くなりますし、敷地内に不要な可燃物を放置すれば、放火され易くなります。

万が一、火災が発生しても火災を拡大させないため、拡大を遅らせるために不要な可燃物は処分しましょう。



地震火災を防ぎましょう

地震発生時には、同時に多くの場所で火災が発生する恐れがあります。発生する原因は様々ですが、中でも地震に伴う停電の復旧時に通電と同時に出火する通電火災が多発する傾向にあります。

この火災を防ぐためには、地震の揺れを感じし、ブレーカーを自動で遮断する感震ブレーカーを設置し、停電の復旧時に通電火災が発生しないよう対策することが必要です。

また、同時多発的に発生した火災では、消防活動が遅れる可能性があり、通電火災が原因で近隣住宅に被害が及ぶ可能性があります。感震ブレーカーによる対策は、ご家庭に加え、地域一体で実施することでより高い効果を発揮します。

感震ブレーカーの種類	分電盤タイプ(内蔵型)	分電盤タイプ(後付型)	コンセントタイプ	簡易タイプ
※電気工事が必要				
特徴	分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感じし、ブレーカーを切って電気を遮断する。	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、センサーが揺れを感じし、ブレーカーを切って電気を遮断する。	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感じし、コンセントから電気を遮断する。	ばねの作動や重りの落下などによりブレーカーを切って電気を遮断する。
費用	約5~10万円	約1~3万円	約5千円~2万円	約2~5千円



すぐに『消火』できる環境づくり

消火器(具)を設置しましょう

火災の初期段階は、小さな火種であることがほとんどです。万が一、火災が発生しても初期段階で食い止めるため、ご自宅には消火器(具)を設置しましょう。

消火器(具)には、業務用消火器、住宅用消火器、エアゾール式簡易消火具などがあり、メーカー・商品ごとに消火できる火災種別が異なりますので、本体に表示された適応火災表示マークの確認が必要です。消防署では、普通火災(木材、紙などが燃える火災)、油火災(油類などが燃える火災)、電気火災(電気機器などの火災)の3種に適応した消火器(具)を推奨しています。

消火器(具) の種類	業務用消火器	住宅用消火器	エアゾール式簡易消火具
耐用年数	おおむね10年	おおむね5年	おおむね3年
放射距離	約3~5m	約3~5m	約2~3m
特徴	耐用年数が長い。	軽量で、様々な色やデザインのものがある。	軽量で、処分が容易にできる。
費用	約5千円~1万円		約2千円~4千円

使用方法

業務用／住宅用 消火器



エアゾール式 簡易消火具



※1…フタのないタイプもあり　※2…ホースのないタイプもあり

処分方法

業務用及び住宅用消火器の処分は、取り扱い窓口に『持ち込み』又は同窓口による『引き取り』で処分できます。取り扱い窓口の詳細は、消火器リサイクル推進センターのホームページにて確認してください。処分には、処理費用や収集運搬費が必要な場合があります。

エアゾール式簡易消火具の処分は、各自治体が定めるスプレー缶の処分方法に従って処理してください。処分時に中身が残っている場合は、古新聞等に噴射し、空にしてから処分してください。

消火器リサイクル
推進センター
ホームページ





住宅用火災警報器で『逃げ遅れ』を防げ!

住宅用火災警報器とは

住宅用火災警報器は、火災で発生した煙や熱を感知して警報音や音声で知らせてくれる機器です。

この警報器は、条例により新築の一般住宅を対象として平成18年6月1日から設置が義務付けられています。(条例施行時に既存の住宅については、平成20年6月1日から設置が義務付けられています。)

就寝中や人のいない場所で火災が発生すると火災に気付くことが遅れてしまい、知らぬ間に火災が拡大し、手遅れになる場合があります。皆さんの生命と財産を守るために、住宅用火災警報器は、適切に設置することが必要です。

設置する部屋は

何階建てか	寝室の階数	台所	寝室 ^{※2}			階段上部		
			1階	2階	3階	1階	2階	3階
1階建て	寝室が1階のみ	●	●					
	寝室が2階のみ	●		●				
2階建て	寝室が1階と2階	●	●	●			●	
	寝室が1階のみ	●	●					●
	寝室が2階のみ	●		●			●	
3階建て	寝室が3階のみ	●				●	●	●
	寝室が1階と2階	●	●	●			●	
	寝室が1階と3階	●	●		●	●		●
	寝室が2階と3階	●		●	●		●	●
	寝室が1階、2階と3階	●	●	●	●	●	●	●

※1 台所…住宅の建築年数などにより設置義務がない場合がありますが、火災の被害軽減が期待できるため、どの住宅にも設置を推奨します。(詳しくは、最寄りの消防署へお問い合わせください。)

※2 寝室…子ども部屋や和室も寝室として用いていれば該当します。

設置する位置は

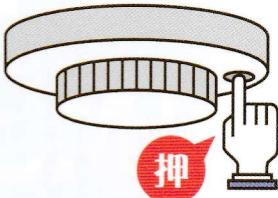
天井に設置する場合	壁に設置する場合
警報器の中心が壁や梁から60cm以上(熱式の場合は40cm以上)離して取り付けてください。 また、近くにエアコンがある場合は、吹き出しがから1.5m以上離して取り付けてください。	警報器の中心が天井から15cm~50cm以内に入るように取り付けてください。 また、近くにエアコンがある場合は、吹き出しがから1.5m以上離して取り付けてください。

点検方法

住宅用火災警報器は、電池切れや故障していると全く効果がありません。
月1回を目安に自主点検をして、警報器を正常に保ちましょう。

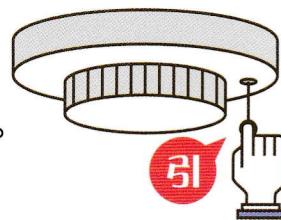
ボタンタイプ

ボタンを押して
点検ができます。



ひもタイプ

ひもを引いて
点検ができます。



警報音が鳴らない、故障を示すメッセージが鳴る場合は、すぐに交換してください。

交換のめやす

住宅用火災警報器の寿命は、どのメーカーも一般的に10年です。
10年が経過したものや自主点検で不具合が判明したものは、すぐに交換してください。

住宅用火災警報器は、ホームセンターや家電量販店で購入することができ、ネジ数本で天井や壁に固定し、容易に取り付けることができます。

万が一、火災が発生したら

3つのこと（通報・避難・消火）を徹底してください。

通 報	避 難	消 火
<p>火災が起きたら炎の大きさを問わず、すぐに119番通報をしてください。また、あなたと同じく火災危険が近づいている近隣住民にも知らせてください。</p>	<p>逃げ遅れる前にすぐに屋外へ避難してください。 また、有毒なガスを吸わないようできる範囲で低い姿勢を保ち、風上へ避難してください。</p>	<p>無理のない範囲で消火器等で消火を試みてください。 ただし、熱い、息苦しいなど、身の危険を感じたら消火はあきらめ、避難してください。</p>

BISAN FIRE DEPARTMENT

火災予防に関するお問い合わせ先

尾三消防本部予防課 TEL 0561-38-7236

最寄りの消防署

日進消防署予防課

TEL 0561-73-0119

豊明消防署予防課

TEL 0562-92-0119

みよし消防署予防課

TEL 0561-36-0119

長久手消防署予防課

TEL 0561-62-1152

東郷消防署予防課

TEL 0561-39-0119